

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

2月3日

NO、20

人を育てる

「あらゆる仕事に通じる仕事の流儀」というタイトルに目を惹かれました。
榎原記念病院副院長の高橋幸弘医師と円覚寺横田南嶺管長の対談記事です。
高橋医師は、7000 人もの子どもの命を救った小児心臓外科として有名な方です。
医療と宗教、カテゴリーの異なるお二人の人を育てることについて語り合う場面は興味深く、印象的でした。

「手術の成功率 98.7%を実現する最大の秘訣は何ですか？」

と問う横田管長に、

「チームワークです。」

と答えられる高橋先生でしたが、

「チームワークは仲良しグループではありません。プロ同士批判し合うことが大事です。」

と続けられました。さらに、

「チームの力をつけるのに大事なことは、一番レベルの高い人に合わせることです。」

と言い切ります。低い人ではありません。高い人に合わせるのです。

高い人に合わせるのは簡単な事ではありません。長くて苦しい努力が必要です。

「桃栗 3 年、柿 8 年、梅は酸いとて 13 年、蜜柑大馬鹿 20 年」

という言葉が横田管長が紹介されていました。

一つの道を究めようと思えば、最低でも 20 年は続けないといけない。どんな職業であっても形にするには長い時間が必要になります。

横田管長が面白いエピソードを紹介していました。

車の免許を取りたいと師匠に許可を得ようと話したところ、

「そんなものは必要ない。」

言下に却下されたそうです。どうしてですかと師匠に尋ねると

「修行をすれば、車が迎えに来る。」

究めるとはこういうことなのでしょう。育てるとは、

「教えすぎはいけない。」と高橋医師。

「口でいうことは伝わらない」と横田管長。

さすが「あらゆる仕事に通じる」というタイトルです。授業も全く同じなのです。

教師は教えたがります。言葉で説明しようとします。教師の声ばかりが聞こえてくる。そんな授業では知的な面白さはなく、退屈な授業になります。

考えさせて、ノートや端末に自分の考えを書かせる。子ども達にたくさん声を出させ、自分の思いや考えを発表させる。そんな授業が子どもを育てます。

これからも子ども達のより良い成長のために教職員一同全力を尽くします。ご理解とご協力をお願いします。